

柳沢一男編『板付周辺遺跡調査報告書(9)』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第98集) (一九八二年)

大分・藤田遺跡

(柳沢一男)



高畠廃寺出土墨書土器

- | | | |
|---|---------------|------------------|
| 1 | 所在地 | 宇佐市大字南宇佐字藤田 |
| 2 | 調査期間 | 一九八二年(昭57)七月~一二月 |
| 3 | 発掘機関 | 宇佐市教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 林一也・小倉正五 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 6 | 遺跡の時代 | 平安~室町時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

本遺跡は、宇佐神宮より西へ四五〇m離れた谷底平野に立地する。遺跡の北側には勅使街道と呼ばれる道路が東西に延びており、その

東の端は神宮境内に占地する。

天平十年(七三八)創建の
弥勒寺西門跡に通じている。

近年、この道路の南側において圃場整備事業に伴う発
掘調査が実施され、宇佐神宮の主要参道に面した集落跡の一端を明らかにするこ
とができた。



(宇佐)

1982年出土の木簡

8 木簡の釈文・内容

木簡はSE21井戸内より、箸、曲物、下駄、その他の木製品、土器等に混つて一点検出されている。共伴する土器から平安・鎌倉時代のものと考えられる。井戸は堅半分しか発掘していないので正確ではないが、縦板の上端に方形の穴があけられており、紐どめの木枠組と推測される。



SE21 井戸

調査の結果、約一三〇

〇²の範囲に掘立柱建物

二〇棟以上、柵四列、井

戸二基、溝状遺構二条、

それに円形、不定形の土

塹十数基等が検出された。

このうち掘立柱建物には、六間×三間（一四m×七m）の大型のものがあり、

有勢者の存在が考えられる。溝状遺構は、九世紀の土器や瓦を伴うものと、一四世紀末の各種土器を伴うものがあり、遺跡の上限と下限を示している。またその他の遺構から出土する土器は、糸切り底の壺と小皿がきわめて多いが、内黒土師器、瓦器、各種陶磁器等もかなり多く確認された。



調査区東側全景

9 関係文献

〔□□□□□〔十一月カ〕
□□□□□×〕

宇佐市教育委員会『藤田遺跡』（一九八三年）

（小倉正五）

181